

整備工場が稼働



中田商事

中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）はこのほど、倉庫として使用していたスペースを整備工場へと改装。中部運輸局からの認証も受け、将来的には他社のトラックなど幅広いニーズを受け入れる方針だ。

同社はこれまで、全車両をディーラーによるフルメンテナンス契約で管理してきた。しかし、車両数が50台を越え整備コストの負担が大きくなってきた。そこで、先行投資とし

て借りていた「第二倉庫」を整備工場に切り替える決意をした。

整備工場は敷地面積約400坪で、工場内には2基の天井クレーンを備える。「過剰投資だった設備が適正投資になっただけでなく、整備コストも大幅に削減できた。これまでにディーラー任せだったドライバーや管理者もコスト意識を持つようになり一石三鳥」と中田社長。「他社と提携して、ボディの載せ替えも手がけたい」とのビジョンを語る。

（加藤 崇）